

H24 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲結果

斜里町幌別ー岩尾別地区において、2012年6月（初夏：無積雪期）、同11月～12月上旬（秋期：無積雪期）、および2013年1～4月（冬期：積雪期）に3パターンの捕獲作業を実施し、計418頭（オス成獣99頭、メス成獣251頭、0歳68頭）を捕獲。

<実施結果>

1) 無積雪期（初夏）の流し猟式シャープシューティング（以下、SS）

2012年6月18～27日に百平方メートル運動地内の作業道において計4回試行し、36頭（うちメス成獣32頭；88.9%）を捕獲。

2) 無積雪期（秋期）の流し猟式SS

2012年11月15日～12月7日に百平方メートル運動地内の作業道において計7回試行し、33頭（うちメス成獣24頭；72.7%）を捕獲。

3) 岩尾別川河口の囲いわな（積雪期）

2013年1月20日～3月22日の62日間に自動落下式ゲートを用いて、181頭（うちメス成獣124頭；68.5%）を捕獲。

4) 積雪期の流し猟式SS

2012年12月15日～2013年4月12日の119日間（餌づけ期間）に流し猟式SSを岩尾別地区の冬期通行止めの道道および町道で計20回実施。計168頭（うちメス成獣71頭；42.3%）を捕獲した。

なお2月8日～2月27日の20日間はシカの再馴化のための捕獲中断期間とした（餌づけのみ実施）。

表 1-3-1. H24 シカ年度冬期 幌別 - 岩尾別地区における手法別捕獲実施状況

	12月	1月	2月	3月	4月
囲いわな 岩尾別川河口					
		1/14～餌づけ誘引	1/20～ わな稼働期間	～3/22	ヒグマ出現で終了
流し猟式SS 岩尾別					
	12/15～餌づけ誘引	1月7回	2月3回	3月6回	4月4回

表 1-3-2. H24 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別シカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス成獣	メス成獣	0歳	計
無積雪期 流し猟式 シャープシューティング(6月)	幌別-岩尾別	4	32	0	36
無積雪期 流し猟式 シャープシューティング(11-12月)	幌別-岩尾別	5	24	4	33
囲いわな	岩尾別川河口	17	124	40	181
積雪期 流し猟式 シャープシューティング(1-4月)	岩尾別地区	73	71	24	168
合計		99	251	68	418

<捕獲効率>

- ・ 1日あたりの最大捕獲頭数は、囲いわな 21頭、流し猟式 SS が 19頭。ともに1月31日がピークであった(図 1-3-1)。
- ・ 投下労働力あたりの捕獲頭数は、囲いわな 8.1頭/人日、流し猟式 SS が 1.8頭/人日。
- ・ 流し猟式 SS の射手待機 1時間あたりの捕獲頭数は、全体で 2.7頭/時間。実施日により、0.2~6.3頭/時間のばらつきあり。

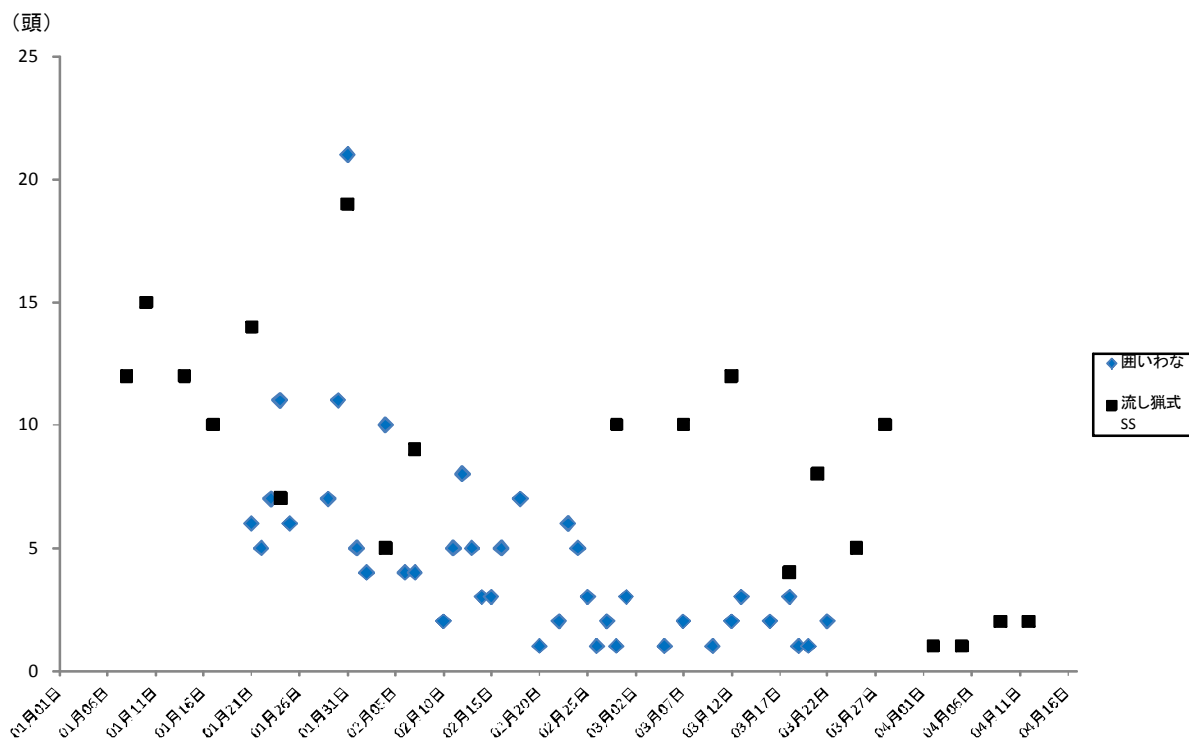


図 1-3-1. 幌別-岩尾別地区における H24 シカ年度冬期 (2013 年 1-4 月) の手法別・日別エゾシカ捕獲結果

表 1-3-3. 時期別シカ捕獲効率のシカ年度間比較（積雪期の流し猟式 SS）

	H23シカ年度		H24シカ年度	
	期間	捕獲効率*	期間	捕獲効率*
捕獲中断前	1/16-25	4.4	1/8-2/7	4.0
捕獲中断後	3/21-29	13.6	2/28-3/28	2.2
4月	4/3-15	5.9	4/2-12	0.6

* 捕獲効率：射手待機1時間あたりのシカ捕獲頭数(頭/時間)

- ・ H24 シカ年度は捕獲中断後にメス成獣の比率が増加し（捕獲頭数に占める割合は2倍に増加）、群れサイズが大きいために発砲を見送る場面が頻発、捕獲効率に影響した。
- ・ 獲り逃がしは捕獲中断前の方が中断後より高率に発生した（時期別捕獲数の 41.7 % vs 22.1 %）。

<岩尾別地区考察>

1) 無積雪期の流し猟式 SS

- ・ 1~2頭の少数群とみなして狙撃を開始すると、ササなどの陰に座っていた別のシカが後から出現する事例が多発した。
- ・ スマートディア予備軍の「無傷逃走」個体を量産する可能性が高いため、無積雪期、特に秋期の SS はリスクが大きい。

2) 囲いわな

- ・ H23 シカ年度の幌別地区（知床自然センター裏）囲いわなよりも、効率よくシカを捕獲。最適地へ囲いわなを設置できたことが大きな成功要因か。
- ・ わなに馴れた個体（意図的に再放逐している標識個体）が活躍。毎回別個体と一緒に捕獲された。
- ・ 3/22 に冬眠明けのヒグマ目撃のため捕獲中止。岩尾別川河口には4月上旬に獲り残し個体が60頭以上確認されたため、ある程度の頭数の捕獲は次年度も見込まれる。

3) 積雪期の流し猟式 SS

- ・ H23 シカ年度と比較して、3月以降の捕獲効率が大幅に低下した（表 1-3-3）。スマート化の影響も否定できないが、それ以上に捕獲可能なシカを獲り尽くしたことや、少数群への分断が困難なメス成獣群が増加したことによる捕獲効率低下の可能性あり。
- ・ 捕獲作業の実施ペース（週2回）にシカの馴化が追いついていないことを示唆する状況が発生した。捕獲中断期間を設けたり、捕獲実施ペースを週1回にするな

ど、シカの馴化状況を観察して、臨機応変に対応すべき。

- 捕獲実施区間の特に中央部では、道路周辺に誘引されたシカは獲り尽くした可能性あり。
- 捕獲実施期間の後半は、シカの分布が岩尾別川河口と知床五湖高架木道最終展望地付近の海側に偏在。これらのシカの SS 実施区間への誘引および捕獲は困難であった。
- 海岸沿いの群れサイズの大きい集団に対しては、仕切柵利用など他の捕獲手法に切り替える必要あり。